

春休みや新年度の準備を始めています。



現在、児童クラブでは、春休みや新年度を迎えるために様々な準備をしています。中でも、特に今年度は、新型コロナウイルスの感染予防のために、保護者説明会も中止させていただいたので、文書による連絡も多くなってしまっております。どうかご理解いただければ幸いです。



来年度の部屋割りについて

4月1日から、新1年生が20名（長期会員も含む）、新2年生が1名、児童クラブに入会します。それにより、通年会員の児童数だけでも総勢86名の児童クラブになります。



そこで、現時点では、以下のように部屋割りを考えていますので、ご承知いただきたくお願いいたします。万一何かの都合で、部屋割りが変更になった場合は、その都度お知らせいたします。



令和3年度の部屋割り

【南園舎1階保育室（ひばり組隣）】

新1年生19名（時沢小9名、芳賀小7名、細井小3名）

時沢小2年生7名、時沢小3年生4名

合計30名

【南園舎1階ひばり組保育室】

時沢小以外の2年生23名

（芳賀小18名、細井小2名、桃川小2名、桃木小1名）

合計23名

【北園舎2階保育室】

芳賀小の3年生15名、4年生10名（芳賀小4名、時沢小2名、桃木小2名、細井小1名、桃川小1名）、5年生7名（芳賀小5名、時沢小2名）、芳賀小の6年生1名

合計33名

※新年度は、春休み中の4月1日からになりますが、混乱を避けるために、春休みの**3月29日から、新しい部屋割り**で、保育を行う予定です。

子育てのあれこれ No.11

(文責=鷺頭)

今回は、「勉強ができるようになるためには『がまんする力』を育てる」ことが大切といったことを紹介させていただきましたので、今回は、「**がまんする力をどのように育てたらいいか**」について、紹介させていただきたいと思っております。

がまんする力を育てるためには、一言で言えば、「がまんする体験を積み重ねること」が必要だと言われております。しかし、気をつけなければならないのは、子どもの発達段階やがまんさせることの中身を考えることが大切だということです。何でもがまんばかりさせている、いつも指示待ちの無気力な子や大人の顔色ばかり気にする自信をもてない子に育ててしまうことにつながるからです。そこで、がまんする力を育てるためのポイントとされていることについて、そのいくつか紹介させていただきます。

〇がまんさせるための前提は？

「がまん」とは、**欲望を統制すること**なので、子どもにしてみれば、何らかのストレスを抱えることとなります。そのストレスに打ち勝っていくためのエネルギー（耐性）を発揮するには、**親子間に強い情緒的な結びつきがあることが前提**です。

3歳ぐらいまでに、スキンシップや対話により十分甘えさせてもらった（甘やかしてはなりません）子は耐性も強いのに対して、甘えの経験が足りない子は、がまんさせることが逃避行動や心身の異常、非行などのきっかけになることが多いと言われています。

○がまんさせてはいけないこと、がまんさせなければならないことは？

昔の学校では、授業中にトイレに行ったり水を飲んだりすることは、がまんすることでしたが、**トイレも水のみも**身体が要求していることなので、節度は徐々に学ばせていく必要はあるとしても、**基本的にはがまんさせてはいけないこと**です。ただし喉が渇いたときに飲む飲み物の味や冷たさに関する要求は、がまんさせるべきこととなります。

子どもにいちばんがまんさせなければならないことは、物質的・金銭的な欲望であると言われています。幼い子にいちばん多い要求が、「あのお菓子が欲しい」「あのおもちゃが欲しい」等です。最初は「だめ！」と言ったのに、最終的には子どもに負けて「一つだけ」などと与えてしまうのがいちばん悪い対応なのだそうです。なぜなら、そのような対応により、子どもはわがままを通すことを学習してしまうからだそうです。

○がまんのさせ方は？

がまんのさせ方の基本は、「待たせること」です。お菓子が欲しくてもおやつのお時間まで待たせる、ほしいおもちゃがあっても、誕生日まで待たせる、使いたい遊具やおもちゃを他の子が使っていたら番が来るまで待たせる等々です。また、命の危険が想定される場合などは、行動そのものを制限したり禁止したりせねばなりません。

○子どもの成長とがまんのさせ方の関係は？

認知や思考に関する発達心理学の理論からすると、子どもの発達段階によって、がまんのさせ方を変えていく必要があると言われています。

例えば、**幼児期前期（1歳半～3歳）は、「親に合わせられるようにがまんさせること」が大切**であるそうです。社会性を培うための基本となる「人と合わせること」にがまんが必要だからです。例えば、「○○ちゃんが好きなもの」を夕食にするのではなく、「大人が考えた夕食」を食べられるようにしていくことが必要なのだそうです。

次に、**幼児期後期（3歳～就学前）は、がまんする力（自己統制力）をつける時期**であり、待たせたり、行動の制限や禁止をしたりして、**親主導でがまんする経験を積み上げていくことが大切**だそうです。そのようながまんする体験の繰り返しにより、がまんすることの価値を体得していき、耐性もつけていくことができるのだそうです。

○小学生に求められるがまんは？

個人差はありますが、一般的に言われているのは**小学校3・4年生の頃を境にして、子どもは「自分から進んでがまんできるようになる」と**言われています。がまんすることを自己決定し、がまんを続けていくことができるようになるのです。大きく見れば、その前後が低学年や高学年であり、**小学生は、「がまんする力の発達」**からしても大きな**転換期であり過渡期**であるのです。高学年になればなるほど、子ども自身にその気がないのに大人たちががまんを強いると、反発するなどの逆効果となります。

以上、「がまん」についていろいろなことを紹介させていただきましたが、**幼いときほど「がまん」をさせ、学年が上がるにつれ、本人に任せていくことが大切**なようです。その反対に、幼いときに「がまんさせる体験」が不足しているにもかかわらず、高学年になってからがまんを要求するのが、いちばん悪いパターンと言えるようです。

*参考文献 「親がすべきこととしてはいけないこと」「子どもの能力の見つけ方伸ばし方」（平井信義著）、「甘やかされている子の学習態度」（新井邦二郎著）、「子どもの発達とつまずき」（高野清純著）、「自分流教育のすすめ」（森 毅）他

以前にも書かせていただきましたが、**このコーナーで紹介させていただいている子育て論等はいくつまでも理想なので、ほとんどの大人たちはそのようにはできないのが現実であり、それが普通**です。ですから、「もしそのようにできればそれにこしたことはない」程度に受け止めていただくのがいいかと思います。